

行歯会だより 第95号

(行歯会 = 全国行政歯科技術職連絡会) 平成 26 年 3・4 月

【今月の記事】

- 1 厚生労働省 鳥山歯科保健課長特別寄稿
村の鍛冶屋
厚生労働省医政局歯科保健課長 鳥山佳則氏
- 2 地域紹介
佐賀県 2013年度のトピックス
佐賀県健康福祉本部健康増進課 小川千秋氏

★厚生労働省 鳥山歯科保健課長特別寄稿★

村の鍛冶屋

厚生労働省医政局歯科保健課長
鳥山佳則



「しばしもやまずに、槌打つ響き」、勤勉な仕事ぶりを示す歌詞である。いかなる職業に就こうとも、これを手本としたいものである。一方で、槌を打つ音といえば、「トンチンカン」。同じ鍛冶屋でも、大違いである。

私は、前者を鍛冶屋 A タイプ、後者を鍛冶屋 B タイプと名付けているが、あなたは、どちらであろうか。いささか、やっかいなのは、A タイプと B タイプは、必ずしも相反するものではなく、両方を持つ人もいることである。

さて、B タイプにならないために、ここでは、保健事業について考えてみたい。保健事業と言え、まずは、普及啓発である。ポスター、パンフレット、DVD 等の作成であるが、作成物が形として残るので、担当者は一定の成果を味わうことができる。

ところで、その啓発媒体は、

- ① 何人が目にし、
- ② さらに、その後、行動変容に結びつき
- ③ さらに、最終的に効果が出現するのは、どの程度であろうか。

たとえば、1000部媒体を作成して、①～③が、すべて10%とすると、効果があった人は、 $1000人 \times 10\% \times 10\% \times 10\% = 1人$ である。

①～③が、すべて1%とすると、効果があった人は、0.001人となる。この結果を、どう考えるだろうか。

次に、対象者の層について考える。しばしば、「成人を対象とした事業」なるものがあるが、20歳の女性も成人であるし、私のような中年男性も成人である。これを一括りで考えるのは、いささかセンスに欠けるのではないだろうか。毎月、将棋雑誌を購読しているが、そこには、20代の女性向けの広告はない。逆に女性向け雑誌に、将棋の盤駒の広告はない。つまるところ、対象者を明確化しない普及・啓発を行うことは、鍛冶屋Bタイプである。これに関連して、歯科では、妊産婦以外は、性差を問わないが、このことが、よいのかどうかも、考えてみる必要がある。

保健事業に限らずだが、自分自身が、どれ位、普及啓発のために汗を流しているかも問われる。友人、知人等にわずかな時間であっても、PRしているだろうか。作るだけ、送るだけ、貼るだけの3ダケ事業になっていないだろうか。自ら、広報パーソンになりきっているだろうか。

ITも普及啓発のための重要な手段であるが、住民が担当者の作成した内容にたどり着くまでに、何度、マウスの操作が必要か、数えたことがあるだろうか。迷路のようで、初めから知らない限り、目的の情報にたどり着けないことはないだろうか。

こうして考えてみると、日常的な業務である広報や普及啓発には、まだまだ、工夫の余地がある。「これだから失敗する」ことはあっても、「こうすれば成功する」といった短絡的な方法はない。しかし、そこは、知恵の出どころである。

さて、タイトルの「村の鍛冶屋」に戻るが、そもそも、今日、ほとんど見かけない鍛冶屋を引用した私自身が典型的なBタイプかもしれない。

★地域紹介★

佐賀県 2013年度のトピックス

佐賀県健康福祉本部健康増進課 小川千秋（歯科衛生士）

佐賀県は九州の北西部に位置し、東は福岡県、西は長崎県に接し、北は玄界灘、南は有明海に面しています。東京まで直線距離で約900キロメートル、大阪まで約500キロメートルであるのに対し、朝鮮半島までは約200キロメートル足らずと近接しており、大陸文化の窓口として歴史的、文化的に重要な役割を果たしてきました。

面積は、約2,400平方キロメートル、10市10町で構成され、人口は約85万人となっています。気候は、年間の平均気温が16度前後の地域が多く、穏やかな気候です。

高齢人口（65歳以上）を見ると、全体の24.6%となり、県内の総人口の約2割を占めています。

歯科診療所数は425施設で、人口10万人当たり50.2施設で、全国平均を若干下回っています。

人口10万人当たりの歯科医師数を見ると、県全体では71.1人で、全国平均を若干下回っており、歯科診療所が市街地に集中している地域があり、交通事情の悪い過疎地域などからの受診



が不便であるといった現状があります。

人口10万人当たりの就業歯科衛生士数及び歯科技工士数は、全国平均を上回っています。

行政（正職員）の歯科医師、歯科衛生士は、県に各1名配置のみで、市町には配置がありません。

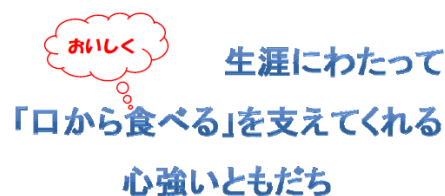
それでは、歯科保健事業に関して、平成25年度を振り返り、トピックスを紹介いたします。

○ 「かかりつけ歯科医」を普及しています。

平成25年3月に、第2次佐賀県歯科保健計画「ヘルシースマイル佐賀21」を策定しました。計画の基本的な方針は、「ライフステージに応じた歯科保健対策の推進」「支援が必要な方への歯科保健医療の推進」「関係機関と連携して総合的な歯科保健対策の推進」「県民への情報提供」となっています。

歯科保健計画推進の大きな柱として「かかりつけ歯科医」の普及を掲げていますが、佐賀県では、「かかりつけ歯科医」を「生涯にわたって『口からおいしく食べる』を支えてくれる心強いともだち」と独自に定義しました。

「かかりつけ歯科医」について県民すべてが共通の認識を持っている訳ではないので、平成25年度に8020運動推進特別事業を活用し、佐賀県歯科医師会の協力を得て、「歯科診療所における『かかりつけ歯科医』実態調査」を実施しました。歯科医療を提供する側から調査した結果は、歯科保健計画の指標に追加することにして



かかりつけ歯科医とは（Sagaバージョン）

○ 口腔保健支援センターを設置しました。

県の口腔保健事業の総合窓口となるとともに、歯科医療等業務に従事する者等に対する情報の提供、研修の実施その他の支援を行うため、平成25年4月1日付けで、健康福祉本部健康増進課内に口腔保健支援センターを設置しました。国庫補助事業を活用して、嘱託の歯科衛生士1名を採用し、「障害者等歯科医療技術者養成事業」「歯科保健医療サービス提供困難者への歯科保健医療推進事業」を実施しました。

口腔保健支援センターでは、Facebook（フェイスブック）を活用した情報発信を行っていますので御覧ください。

<https://www.facebook.com/smile.oral.health>



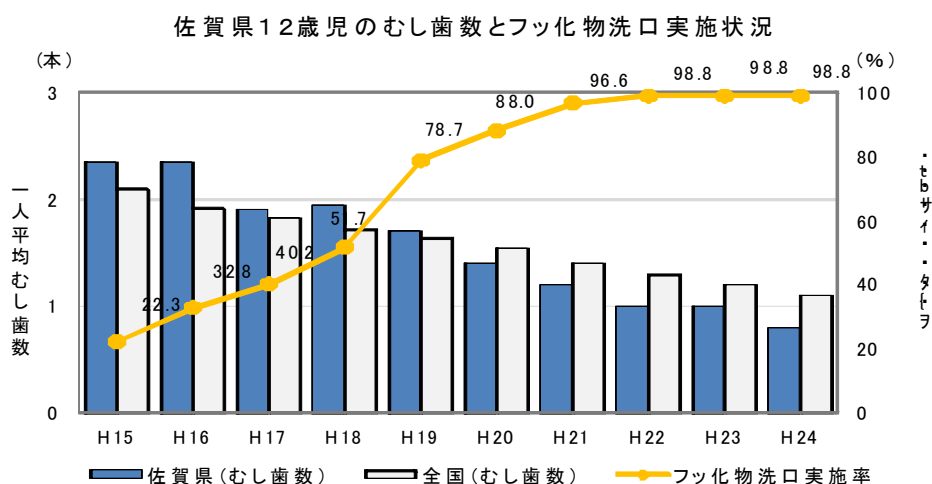
佐賀県口腔保健支援センター

○ 公立小学校でのフッ化物洗口が100%になりました。

平成11年度からフッ化物を応用したう蝕予防事業を推進してきましたが、フッ化物洗口の効果は、12歳児の一人平均むし歯数と有病者率に現れています。いずれも年々減少し、一人平均むし歯数は平成20年度から、有病者率は平成21年度から全国平均を下回っています。

フッ化物洗口の平成24年度の施設実施率は、保育所・幼稚園69.4%、小学校（公立）98.8%、中学校（公立）35.8%となっています。中でも小学校（公立）では、平成25年度に100%になりました。フッ化物洗口は14歳までの実施が望ましいことから、今

後は、中学校での普及に力を入れていくことにしています。



佐賀県では、2014年度も、口腔保健支援センターの機能を発揮して、総合的な歯科保健医療活動の推進を図っていきたいと考えているところです。

編集後記

4月になり職場のメンバーも入れ替わり、これまでやれなかったことをやろうと気持ちはさらに前向きに。しかし、昨年度の実績報告、新たな委託契約、補助金要綱作成。。。気がつけば時間がどんどん過ぎてしまっています。他の都道府県に負けないう、時間をうまく使いながらやるべきことをきちんとやっていきたいと思っています。(M)

桜前線は今、北海道で満開とのこと。今年はゆっくりと桜を堪能することなく、残念でした。皆さんはいかがだったでしょうか？

桜が満開の年度末は、事業の実績報告や異動等で慌ただしい毎日でしたが、新年度になり新しい顔ぶれも揃い、気持ちも新たに1年が始まった感じがします。

今年は係に社会人1年生がいるせいかもしれませんが、初心を感じさせてもらっています。(H)

「歯っとサイト」 掲載コンテンツ募集！

「歯っとサイト（歯科口腔保健の情報提供サイト）」

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html>

では、掲載コンテンツを募集しています。

・ Web 媒体（リンクをはる）場合は、下記 URL へ

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/youbou.html>

・ PDF 等のファイル媒体での提供も可能です。

希望される場合は、「行歯会だより」の配信メールに記載されている窓口宛に御連絡ください。